

リンクスの 事業再生現場

レポート 第45回



(株) リンクス

宇都宮市西一の沢町8-22 栃木県林業会館5F
TEL: 028-634-5088
Mail: info@rincs.biz
URL: http://www.rincs.biz/

【足利銀行再上場】

7月末、足利銀行の持ち株会社、足利ホールディングスが再上場に向け東京証券取引所に上場申請したとのニュースが流れました。審査が順調に進めば年内にも再上場する見込みのようです。2003年11月29日の特別危機管理開始決定から丁度10年です。

2008年7月に野村フィナンシャル・パートナーズを中心とした野村グループを主要株主に民間銀行として再出発する際、2010年3月期基準での再上場を目指しましたが、リーマンショック・東日本大震災等の事情により、先送りされていました。株式市況が好転してきた今、満を持してのタイミングです。

県内の経済界にとっては、明るいニュースであり、地元中小企業への支援を通じ、地域経済の活性化が益々求められることでしょう。

しかし、一方では、国有化時に普通株式・優先株式を毀損した取引先の方々の思いを決して忘れてはいけません。当時、足利銀行に身を置いていた私も同じ立場です。弊社のクライアント先にもご迷惑をお掛けした方々が大勢います。それでも多くの方々は、銀行員の前では、もう何も言いませんが、銀行OBの私共には、本音の話をいただくことも多々あります。今回の再上場は非常に特殊なケースと思いますが、上場により、地域密着の地方銀行として新たなステージを迎えることでしょう。

地域密着の金融機関の話で言えば、最近少し違和感を覚えることがあります。それは、貸出金利です。業績良好企業に対しては信じられない

ような金利が提示されています。1億円借りても、年間支払利息数十万円といったこともみられます。量的拡大のために、金融機関間の競争が激化しています。しかしながら、赤字を始めとした問題先に対しては、業績良好先の数倍の金利が適用されます。

私が違和感を覚えるのは、この金利の決め方です。私の知る限り、金利決定の要因は、企業の業績すなわち格付と、担保の状況が大きなウェイトを占めます。全国に支店を配し、取引先を選別できるメガバンクであれば合理的な考え方と思います。しかし、地元密着を謳う金融機関であるからには、取引の実績すなわち、金融機関がその取引先から得た収益実績にも着目すべきだと思います。一般企業の取引としては普通のことです。古くからの取引先を大切にすることなのですから。

現実には、30年間メインバンクとして取引していた企業が業績悪化すれば金利4%であり、新規で取引開始した業績良好企業への金利が1%ということなのです。私の考え方が古いと言われるかもしれませんが、実際の営業店では、どちらの取引先が重要なお客様なのでしょう。どちらのお客様が銀行の利益に貢献しているのでしょうか。30年も取引していれば、元本以上に利息を頂いているはず。行員の意識も同じだと思います。ところが、金利となると、順序は逆転してしまうのです。この違和感、最も感じているのは、長年取引している取引先なのです。



〈著者プロフィール〉

代表取締役社長 佐藤 正人

昭和37年生まれ、大田原高校、新潟大学卒。

昭和60年足利銀行へ入行後、営業店、審査部門を経て平成16年退社。

在職中の事業再生の経験を活かし、平成18年栃木県で初めての事業再生専門のコンサルティング会社である(株)リンクスを設立し代表者に就任。以来地元中小企業の多くの事業再生を行っている。